

# 結

絞首台の鐘が、からころ鳴っています。

「どうして、人間は食べもしないのに殺すのかな？」  
あなたは首をかしげます。

店主／アルヴァンの肉をおいしく食べることに、  
店主／アルヴァンの作った料理をおいしく食べることの違いが、  
あなたにはよくわかりません。

「……おなか、すいたな」

あなたは気付いてしまいました。

我慢していた『おいしそう』は、本当に『おいしい』もので。  
仲間になりたかったものたちは、あなたの為の『ごちそう』でした。

あなたは考えます。

「でもな、食べたらなくなっちゃうし。……あ、そうだ！」

あなたはいそいそと旅支度を整え、ねぐらを壊してしまいました。  
そうして、森の外へと歩き始めます。

「いろんなところでちょっとずつ食べればきっとなくなるないね」  
そうしてあなたは『おいしいもの』を目指して歩いてゆくのでした。

+++++

END-S-1：『空腹のオオカミ』